令和５年３月 31 日

静岡市　御中

ＮＰＯ法人アートコネクトしずおか
保崎一乃

# 『コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト』報告書

## 活動目的

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト
障害のある子供たちと工作で楽しんでもらう試み。

## 訪問者

【出演】
吉川　英男さん（プロダクトデザイナー）
神谷　宥希枝さん（ラジオパーソナリティ）
仁科　亜弓さん（コンポーザー・サウンドデザイナー）

【主催】
ＮＰＯ法人　アートコネクトしずおか
理事　遠藤 次朗
　　保崎 一乃

## 活動内容

会　　場　　放課後等デイサービス 児童発達支援 保育所等訪問支援　はれのひ

Ｕ Ｒ Ｌ　　https://rinodays.com/

場　　所　　静岡市清水区辻一丁目 4 番 11 号

日　　時　　2022 年 12 月 26 日（月）10:00~12:00

対　　象　　通所利用者（小学生）＋支援員

人　　数　　合計 8 名 （子供 4 名、支援員 4 名）

## 全体の流れ

牛乳（ジュース）パックや紙コップ、輪ゴムを使って、「的当て」と「飛び出すロケット」を製作しました。制作後にはお部屋の中で縁日のように 3 つのブースを作り、「的当てコーナー」「ロケット飛ばしコーナー」と、西田さん持参の「トイピアノ」と呼ばれる小さなピアノを置いた「ピアノコーナー」で子供たちがそれぞれ選択して遊びました。

10:00～11:00　的当て作り
工程　　デザイン（イラストシール貼り）
　　図面に切り、輪ゴムをかける
　　完成　実際に飛ばす
11:00 ~11:30 ロケット飛ばし作り　体験
工程　　デザイン（イラストシール貼り）
　　紙コップを切り、輪ゴムを貼ったり、ホッチキスを使用し形を整える
　　完成　実際に飛ばす
11:30 ~11:35　5 分間休憩
11:35 ~12:10 過ぎ　選択あそび（的当て、ロケット飛ばし、トイピアノ）

## 成果

【的当て作り】

- 牛乳パックと紙コップ・輪ゴムを使い、的当てと、その的を作りました。

- 初めに、長方形にカットされ図面が描かれた牛乳パックの紙に、自由に絵を描いたりシールを貼ったりして的当てをオリジナルにデザインしました。
  オリジナル、自由にというのが難しかったのかイラストを描くのに時間がかかりました。
  完成した的当てが完成イメージとしてありましたが、平面の状態から立体的になった場合も想像しにくく、難しかったかもしれません。
  今後は、塗り絵のようにあらかじめ線だけ描いて、塗ってもらうようなものも準備したいと

思いました。

- 中には早々に描き始める子もいましたが、ずっと何を描いたらいいんだろう、と支援員さんに聞き回っている子もいました。支援員さんもあれは？これは？とアイデアを出すも、「うーん」と困り果てている様子で、シールをいくつかその子の前に並べたりしても想像がつかないようで、支援員さんが作っている的当てを覗き込んだり、話していたりしました。
  しばらくして、支援員さんが色々なイラストが印刷された紙を持ってきてその子に渡しました。
  その中のいくつかのイラストに丸をつけて、台紙の方にも丸をつけ、「これを切って、ここに貼って欲しい」とその子に伝えました。（この絵が可愛いからやって欲しいとお願いベースの言い方）すると、雰囲気が変わりシャキッとした様子で、「分かった」と勢いよく取り組み始めました。
  支援員さんが、ある程度その子が考える時間を待ち、厳しそうであれば別の対応にシフトしていて、日頃からその子の特性を知っているからこその時間の区切りだったのだなと感じました。

- 紙を図面に沿って折り目をつけ輪ゴムをかける工程では、あらかじめ線が引いてあるので、戸惑うことなくすぐに完成しました。
  試し撃ちとして、一番前の席に作った的（紙コップ）を並べると、子供も大人もスナイパーのごとく、一斉に的を狙いました。的が当たるたびにおおー！！という歓声と拍手の音がしました。
  施設から細長い円柱形の固いスポンジのような玩具をお借りして、その上に紙コップを乗せ、難易度を上げたりと、とても楽しんでくれている様子でした。

【ロケット飛ばし作り】

- 紙コップと輪ゴムを使い、的当て同様に絵を描いたりシールを貼ったりして制作しました。

- イラストやシールを貼る工程では、2 度目でもあり、紙コップの形状から出来上がりがイメージしやすかったのか、的当ての時よりも、各々イキイキと迷いなく制作している様子でした。的当ての際にずっと悩んでいた子も、開始からどんどんシールを貼っていて、支援員さんに聞いたりしていましたが、イメージができていたのか的当ての際よりもずっと早く、悩んでいる様子なく作れていたようでした。

- 輪ゴムを紙コップに貼ったり、ホッチキスを使用したりする工程では、色々紙を抑えたり止めたりで時間がかかるかと思っていたのですが、支援員さんが子供たり一人一人についていられたからか、作業が早く終わりました。
  完成し、いざ飛ばすと、中々高く飛ばすのは難しく、誰かが高く飛ばせると歓声が起こりま

した。
ただ、どれくらい飛んだかが分かりにくのもあり、的当てほどの歓声は起こりませんでした。
身長計のように飛んだ高さがわかるものもあれば、もっと盛り上がったかもしれないです。

- 支援員さんが途中からホワイトボードに制作の流れ（手順、工程ごとの時間）を書いてくださいました。またタイマーを手順の一区切りごとに時間をセットしていました。
  そうなってからの方が、子供たちにスイッチが入ったかのようにシャキシャキ動いているように見えました。
  子供たちだけでなくこちらとしてもどの段階までできているのか、進め具合が調節できてありがたかったです。イラストやシール張りの時などは子供たちの状態に合わせて時間をもっと取った方がいいのかなと思っていましたが、逆に区切りが分かってからの方がスムーズに制作していて、想定時間内に次の工程に進められました。

【選択遊び】

- 制作後、それぞれで選択して、「的あて」「ロケット飛ばし」「トイピアノ」で遊びました。
  支援員さんが今からやることを説明し３つどれでも遊んでいいよと伝えると、一斉に的あてに向かいました。一人自閉の傾向の強い女の子はトイピアノを選択しましたが、誰もロケット飛ばしコーナーには見向きもしませんでした。とてもわかりやすい反応でした。
  的あては、的に当てて倒すという目的があるので理解しやすく、また的によって難易度を変更できてゲーム性が高く、競い合うという部分でもとても盛り上がっていました。

1. トイピアノ

- トイピアノを選択した女の子は４つのピアノをそれぞれ試して、初めは支援員さんと一緒に押して音を出していました。押す指の力が控えめなので、一番音が鳴りやすいピアノを手前におくと、指を３本にしたり、２本にしたりしながら等間隔でリズムをとって音を奏でていました。
  思ったより大きめの音が出るトイピアノだったので、びっくりしないか心配でしたが、自分の演奏が終わると手を叩いてキャラキャラと喜んでくれているようで、何回も演奏してくれました。
  演奏中、視線を上げると支援員さんも参加者も大人全員その子の演奏に目を向けていて、良かったねと嬉しそうな表情でその子の奏でるリズム同じように頷いていました。少し離れた方にいた男性の支援員さんは、音の方へ体をずいっと傾けてながら聴いていました。

- 西田さんがほかのトイピアノで演奏していると、その女の子も一緒になって弾き始めて伴奏しました。支援員さんが少し驚いた表情で「セッションしてるね」と嬉しそうで、和やかな雰囲気でした。

- ピアノ演奏の女の子のそばにいた支援員さんが、演奏が終わったときに３音ばかりジャーンと音を鳴らして参加すると、女の子が静かーに嫌そうにその支援員さんを見ていました。「はい。嫌だったよね」と支援員さんはしょんぼり言いました。
  また、木琴とピアノが一緒になったトイピアノがあり、木琴のバチは無くなってしまったとのことだったのですが、せっかくだから木琴も鳴らさせてあげたいと、支援員さんが自分のボールペンを女の子に差し出し「〇〇ちゃん、バチだよ」と渡して鳴らさせてみるも、女の子は「えーーー」と言った表情で鈍い反応。「そうだよね。バチじゃないもんね、ボールペンだもんね。」と、職員さんは重ねてしょんぼりしていました。そのやりとりが健気で切なくも、女の子の反応の素直さが可愛らしく面白く、また女の子の中できちんと境界があるのだなと感心しました。

2. 的あてコーナー

- ある男の子の的あては、何度も輪ゴムを飛ばして、ここまで使い込まれたら本望だろうというぐらいに、よれよれになっていました。支援員さんがガムテープと割り箸で補強してくれていましたが、あまり飛ばなかったのか、その男の子は的あてのゲームマスターのようになり、的になる紙コップを並べてたり、ルールを作ったりしていました。
  初め紙コップを並べているときは、ただ一つを置く、もしくは紙コップを上下重ねて置く具合でしたが、（内心もっといろんな置き方を提案したいなとうずうず思いました。）しばらくすると的は圧倒的に進化していました。
  ピラミッド型はもちろん、ボーリングのピンのように並べたり、なかなか倒れないように紙コップ全部を重ねたり、紙コップの中に使わない輪ゴムを沢山入れて蓋をし、倒れると中の輪ゴムが飛び出すプレゼント型など・・・この 10 分くらいの間で、遊びの進化をここに見たりといった高揚感がありました。
  的あてにセットする輪ゴムも初め一本だったのが、４本以上重ねたり、ひねってセットしたり、輪ゴムの色にもこだわりを見せて、いかに的を狙い打つか・・・色々考えながら夢中になって楽しんでくれている様子でした。

- 時間があっという間に過ぎて、終わり頃、支援員さんが子供たちに「今、終了時間でお昼ご飯になるけど、もっと遊びたい人――？」と聞くと、「延長したい！」「もうちょっとやりたい！」と言ってくれました。すごく楽しんでくれた様子で何よりでした。
  中には「僕はもういいー！」と素直に言ってくれる子もいました。遊びたいという声が先に聞こえた中で、自分の意見をきちんと言えることにすごく感心しました。

## 所感

- 子供たちの参加人数は７名の予定から４名に変更になりましたが、ワークショップを終えてみると、支援員さんが一人一人についていられて、ちょうど良い人数だったと思いました。
また、支援員さんから今回の子供たちは程度に差があるものの、全員自閉症の子たちだったので、割とまとまっていられたと思うけれど、ここにアスペルガーや多動の強い子がいるとまた違っていたかもしれないですとのお話もありました。
今後、工作やお絵かきのワークショップ の募集の際は、人数制限を設けることも考えたいと思います。

- ワークショップ終了後、担当の支援員さんに感想を含め、いろいろ現場の声を伺うことができ、今後の参考になりました。
今回参加した子供たちは（1 人重度の子がいましたが）側から見ていると、そんなに障害の傾向を意識することはないように感じていたのですが、支援員さんが今は４人しかいないけれど、これが３０人の中でみると違うとおっしゃっていたのがすごく納得するものがありました。
的当てで絵を描くのにとても悩んでいた子も、支援員さんがすごく細かく指示を出されていて、そこまでやるんだ！と驚く部分もあったのですが、そうではなくて、そこまでが必要なんだと思うと、３０人一斉に進んでいく中では見えてくるものがあるんだと思いました。

- 支援員さんが部屋を準備する際に、5 分程タイマーをかけて子供たちは別の部屋で休憩をとっていたのですが、そのことについても、本当はあの５分の自由時間は苦痛なんだとおっしゃっていました。たった５分ではなくて、とんでもなく漠然と監獄にいるように長い５分。
子供たちにとっては、“自由に”ということが難しく、何かやることが決まっていて、区切られていることが安心する、自由にと言われるとどうしていいのかパニックになってしまったり、逆に集中しすぎてしまったりしてしまう。そこで「もう終わりだよ」と伝えても、「でも自由って言ってたじゃん！」とパニックになってしまうこともあるとのことでした。
子供たちの様子を見ていても、「タイマーがなったら集まってください」などと言われている時の方が、俊敏に動いていました。

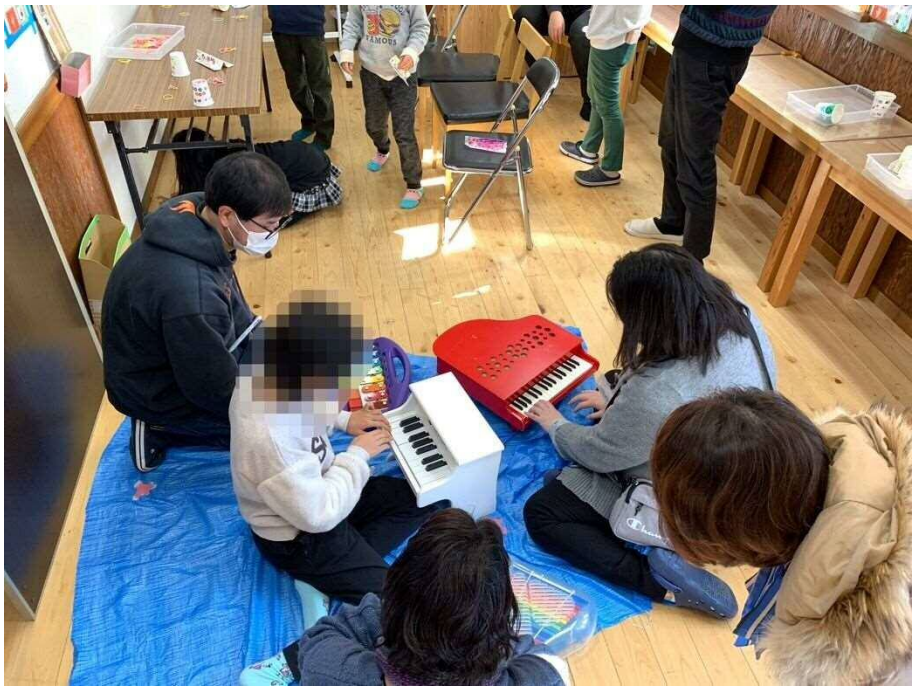
- 今回、参加された神谷さんから、子供たちに声をかけてもいいか？と質問がありました。
支援員さんからは、声をかけても問題はないけれど、「こんにちは」と声をかけても返事が帰ってこないことの方が多いので、期待はしないで声かけてください～とのこと。
挨拶のタイミングや、なんと返して良いのかわからない、そもそも挨拶の意味がわからない子もいると聞いて、今回参加された方々はむしろホッとした様子でした。
楽しんでいるのか、何を思っているのか、関わりたいけれどそう言ったところが読めなくて嫌な気分にさせちゃったかなと不安で…と、子供たちに直接聞けることではないので、支援員さんの通訳でワークショップ中に思っていたことや、今まで・これから関わっていく中で

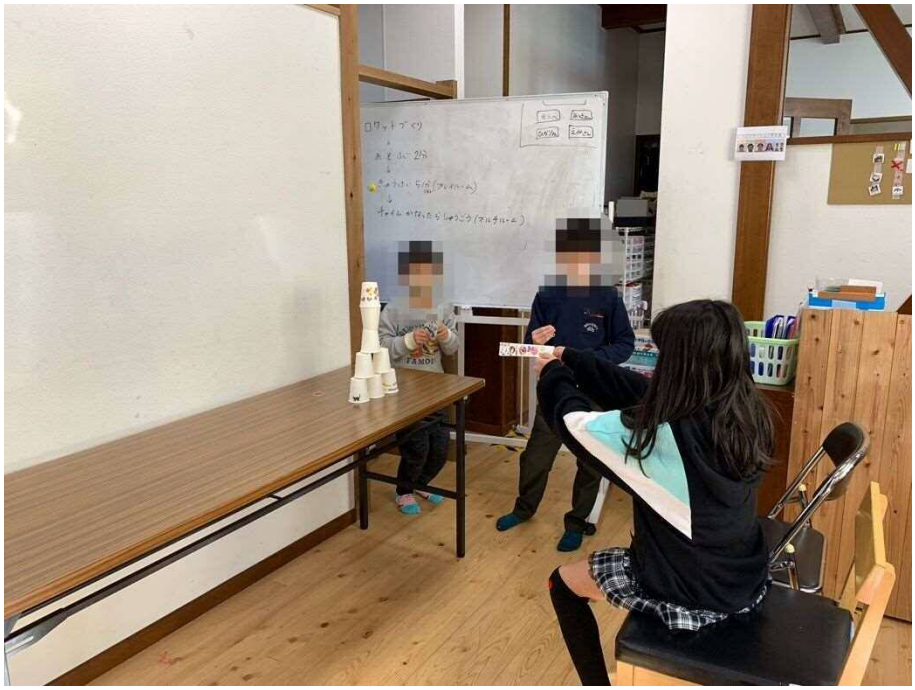
の対応について皆さん一気に質問していました。
どうしたら良いのかわからない、読み取れない不安というのは、子供たちが感じている漠然と長い5分とそう変わりはないようにも感じました。

- 施設側としても今回のように外部を呼んでのイベントは初めてとの事で、状況をわかってくれる人でないと厳しい部分があり、福祉に参加したい人も実際の現場や対応の仕方がわからないので関わって良いものかと思われる方もいると思うと、双方大事にしなくてはいけないと思っている部分は同じで、意識は向いているのに踏み込めないジレンマを感じました。

- 今回はありませんでしたが、神谷さんが絵本の読み聞かせをする際に大きい声やリアクションを出しても大丈夫かと質問がありました。
支援員さんいわく、むしろ子供たちの視線を向けてスイッチを入れる方が良く、ぬるっと始まると始まったことに気づかないでうろうろしちゃう事もあるとのことで、事業所でも集まった初めに絵本を読んで視線を向けているとのことでした。
絵本は対象年齢が0、1、2歳児向けのもので子供たちの年齢にはあっていないけれど、「絵本に出てきたカエルの数を覚えといてね！」と言った答えが明確な問題、イエス・ノーで答えられるものを出しておくと、それを覚えていないといけないから視線が向くとの事でした。
イエス・ノーで答えられることから始めて、徐々に選択肢を増やした中から決めていけるように訓練しているというお話を聞いて、子供たちの感情に寄り添った心理戦のようだと感じました。
支援員さんのその子の特性と今できる範囲を熟知して、それぞれに合った対応をその場でわかりやすく伝える凄さにすごく尊敬しました。

- 制作中、作業説明している時に男の子が横をチラチラ無言で見ていました。少しして支援員さんが「これが気になっていたんだね。ありがとう」といって男の子の目線の先の、ずれ落ちていたカレンダーを直しました。何事もないやり取りのようですが、支援員さんがお話しされた「30人の中で見るのと違う」ということを聞いて、思い返すと考えさせられるものがありました。
もしこれが授業中であれば、よそ見しないで、前を見て話を聞く！と注意することだろうなと。
学校であったり集団行動の中ではその注意が必要ですし、事業所では子供たちを囲うように支援員さんが複数人いたので、気づきやすかった部分があると思います。
ただ、そう入った状況で本人は本当にどうしていいのか見当もつかない中で、何が気になってその行動をしていたのか口に出して伝えることで、その子は納得し、こういったことを繰り返して段々と状況に応じて伝えられるようになったり、できることの範囲を広げていくのだろうなと思いました。




ロケットづくり

令和５年３月 31 日

静岡市　御中

ＮＰＯ法人アートコネクトしずおか
保崎一乃

# 『コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト』報告書

## 活動目的

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト
障害のある子供たちと演劇（リトミック）で体を動かして楽しんでもらう試み。

## 訪問者

【出演】
嶋村　彩さん（パーソナルトレーナー）

【主催】
ＮＰＯ法人　アートコネクトしずおか
理事　遠藤 次朗
　　保崎 一乃

## 活動内容

会　　場　　放課後等デイサービス　ラビット興津

Ｕ Ｒ Ｌ　　https://www.dream-village.net/office/224/

場　　所　　〒424-0204　静岡県静岡市清水区興津中町 383-3

日　　時　　2023 年 2 月 6 日（月）15:30~16:30

対　　象　　通所利用者（小学校1年生～高校2年生）＋支援員
　　向かえにある系列の施設と合同。

人　　数　　合計 25 名ほど （子供 15 名、支援員 10 名ほど）

## 全体の流れ・成果

- 始めに、体をいろんな動きをしながら運動しました。
  嶋村さんが「ゆっくり動いてみよう！」「お尻と背中で歩いてみよう」「床に寝そべってニョロニョロしてみよう」と色々な声掛けと見本の動きをすると、なかなか普段するような動きやポーズなので最初は小さく固かった動きも、お題とともに段々と大きくなり、床に寝そべってゴロゴロしたり、隣の子とくっつくくらいに自由に大胆な動きを見せてくれました。

- 前屈から腹ばいで動く際は猪突猛進する子もいました。ちょっと前までは端にひっそりと佇んでいた子も、いつの間にか真ん中で動いていたりして、単純なお題から子供たちが思いっきり動いて楽しむところまで持っていく、嶋村さんに感動しました。
  また、支援員さんも動きを照れずに大胆にやってくださったので、子供たちも思いっきり取り組められたのだろうと思います。とてもありがたかったです。
  双方の子供たちを楽しませようとするプロ意識に感動しました。

- みんなで輪になって手を繋ぎ、片手ずつギュッと握って円を一周する遊びでは、小学校低学年の男の子が頑なに隣の人と手を繋ぐのを嫌がり、その子は手を繋がないで周りを不機嫌そうにみていました。
  ですが、デモンストレーションとして、嶋村さんや支援員さんら大人５人位がやり方を見せようと輪の中央に集まると、パパパーと飛んできて、一緒に参加し始めました。支援員さんもあれー？と不思議そうに、でも嬉しそうに手を繋いでいました。男の子はその後の本番にも参加してくれました。
  本番になるとなかなかうまく一周せず、途中で止まって、「あれ？今誰だー？」「〇〇君までいったー！」と止まりどころを探していると大柄の男の子が「えー俺まだーー！！（自分のところで止めてる)」会場に笑いが起こりました。ギュッが届かなくても面白かったです。

- 大縄を５、６人で掴んで音楽のリズムに合わせ、それぞれ縄を好きなように引っ張っていろんな形を作る遊びでは、3 回に分けて主に挙手制で行ったのですが、1 回目に参加してくれた

女の子が、2回目の募集をかけていると「もう一度やるに決まってんじゃん！」と言って再び参加してくれました。そのちょっとツンとした言い方が可愛く、楽しんでくれている様子で嬉しかったです。
2 回目が終わって支援員さんが次も行ってくれば？と声をかけると「次はもういい！疲れた！」と、バッサリ清々しい感想をいただきました。

- 今回は小学校低学年～高校生まで幅広い年層の子供たちが参加してくれましたが、小学校中～高学年くらいの子が中心で高校生の子は 1,2 人しかいませんでした。内容的にも小学生の子向けではあったので高校生の男の子は、初めは「俺いいわー」と引いた様子で全体を眺めていました。
  ですが、背中を見せ合うようにして動く遊びが始まると、何かを察知したのか立ち上がって壁に寄りかかり微動だにしません。そこに嶋村さんが「後ろ見せて～」とゾロゾロ寄っていくと、やっぱりきた！と言いたげな雰囲気で恥ずかしそうに、でも素早く、振り返って背中を見せてくれました。
  その後も時々参加したりしてくれている様子で、ワークショップ終了後にも話しかけてくれたりと、年層を感じる中でも場に合わせて盛り上げてくれてありがたかったです。

- 入ってきたと同時にワーと泣き暴れ始めた男の子は結構ずっと声を上げていたので、別室に戻ってしまうかなと思ったのですが、しばらくしてから段々と落ち着いてきたようで最後まで参加してくれました。その子の頑張りと同時に、普段から見ている支援員さんだからこその、ここまで居られる！という粘りに尊敬しました。

- ワークショップ終了後、嶋村さんに今回は使用しなかった道具、(フラフープや、ボールなど)を使った遊びの仕方を教えていただきました。
  フラフープもただ回すだけでなくて、誰か一人をお手本にして好きに動いてもらい他の人が同じポーズをとって順番に回るミラーリング、ボール遊びはいかに落とさないようにくねくね動くかなど、単純なようで実際にやってみるとボールが思いもよらぬ方向へ動いたりして、想像以上に体を使いました。

- 担当の方が「いつも遊びが毎日のことなので、どうしても固定化されてしまう（ダンスなら YouTube のダンス動画を見て踊るなど）今回色々なやり方も教えていただいて参考になりました！今度やってみようと思います！」と、とても喜んでくださいました。

## 所感

- 約１時間のワークショップだったので休憩時間はありませんでしたが（勿論飲み物はいつでも飲んで可）一人の子がお茶を飲み始めたら、何人か続けて水分補給をし始めました。結構動いて汗もかいている子もいて、誰かが飲んでいて初めて喉が渇いたことに気づく場合もあるので、全体で五分くらい休憩時間を挟んでもよかったかもしれないと反省しました。今後は全体での休憩時間を検討したいです。

令和５年３月31日

静岡市　御中

ＮＰＯ法人アートコネクトしずおか
保崎一乃

# 『コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト』報告書

## 活動目的

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト
障害のある子供たちに生の音楽に触れ楽しんでもらう試み。

## 訪問者

【出演】
丸尾 あみこさん（バイオリニスト）
良知 友見さん（ピアニスト）

【主催】
ＮＰＯ法人　アートコネクトしずおか
理事　遠藤 次朗
　　保崎 一乃

## 活動内容

会　　場　　児童発達支援センター もも

Ｕ Ｒ Ｌ　　https://hanazonokai.com/facility/momo/index.html

場　　所　　〒422-8033 静岡県静岡市駿河区登呂３丁目２番１号

日　　時　　2023 年 2 月 14 日（火）10:30~11:10

対　　象　　通所利用者（未就学児）＋支援員

人　　数　　合計 60 名ほど （子供 50 名、支援員 13 名ほど）

## 全体の流れ

10:30~11:10　バイオリン&ピアノ　ミニコンサート
ミッキーマウスマーチやアンパンマンマーチ、童謡などの子ども向けの曲から、パイレーツ・オブ・カリビアン、情熱大陸など幅広い曲を演奏していただきました。
最後にはこのセンターの卒園式に向けて練習している「虹」を演奏して、会場一体となって歌いました。

## 成果

- 始めに「ミッキーマウスマーチ」を演奏していただきました。
  支援員さんが演奏が始まったと同時くらいに手拍子をしてくださったので子供たちも合わせて手拍子をしてくれて、足でドンドンとリズムを取ってくれる子もいて、とても華やかに盛り上がりました。

- 賑やかな曲が続いた後､静かな曲を演奏する際に丸尾さんが｢今から静かな曲を演奏します。3 分くらい静かにしていられるか競争ね」というと、子供たちの目がキラッとワクワクして聴き始めました。はじめ曲の雰囲気が急に変わるので戸惑って声をあげたり、前の曲と同じようにパチパチ手拍子をしてくれる子もいたのですが、段々と曲の雰囲気がわかってくるとゆっくり手を合わせて音を立てないように気をつけて手拍子してくれたり、近くの席の子に「シー！」と注意したりしている子もいて、子供たちの素直さが可愛らしかったです。
  聴くこととは別に、ミッションをやり遂げよう！という一体感が生まれていました。

- ディズニーの曲を演奏する際に「この映画見た頃ある？」と丸尾さんがきくと、「あるー！」「知ってるー！」と元気に返事をしてくれました。演奏の音の強弱に合わせ、手拍子を大きくしたり小さくしたりしていたり、その手つきがとても可愛らしかったです。

- 星に願いを、パイレーツやタンゴ、情熱大陸などの静かであったり大人向けの曲、知らない曲が続くと、さすがに集中力が続かなくなってくるのか、飽きて隣の子と話し始めたり、項

垂れながら聞いている子もいました。「知らないわよ」と言う雰囲気でもういいよと手を振っている子や、直接「もういい――！！」と言う子もいました。
中には健気に手拍子取ろうとしてくれる子もいましたが、知らない曲でリズムも取りづらかったのか困った様子でまだらな手拍子になって、手をいじいじとさせていました。
ですが、どの子も演奏が終わると必ずわぁッと拍手をしてくれてとても律儀でした。
拍手をするタイミングも支援員さんたちがする前に自然にしていたりして驚き感心しました。
小学生が多くいる放課後デイで演奏した際は上記の曲は食いつきが悪い印象はなく、むしろ場の雰囲気が変わり再度注目が入っていたので、２、3 歳の差は大きいなと感じました。
今回は「アンパンマンマーチ」や「おもちゃのチャチャチャ」などが盛り上がって人気でした。それらの曲では演奏中、口ずさんだり踊ったりしている子もいたので、歌詞があるような曲の方が好まれるように感じました。「アンパンマンマーチ」では「アンパーンマーン！」とコールをしてくれる子もいました。

- 最後の曲に支援員さんからリクエストの「虹」を演奏していただきました。
この曲は卒園式にいつも流している曲で卒園式に向けて練習中とのこともあり、丸尾さんが「今から演奏します！」というと、会場の空気がフワッと変わって「私知ってるよー！」とすぐに手を挙げて、歌いながら体を揺らして聴いてくれる女の子もいました。子供たち・支援員さん会場一体となって皆一緒に歌いました。
ずっと支援員さんにべったり隠れるように座っていた子も、その子が歌っていると認識できるくらいに口をしっかり開けて歌ってくれたり、途中から飽きてしまっていた様子だった男の子も歌いながら踊り、椅子の上に立ってポーズを取ったりしていました。演奏が終わると割れんばかりの拍手で、ひと足先に花が咲いたかのような暖かな空間で、卒園式に参加しているかのような気持ちでした。
すごく楽しんでくれていたようで、この曲で最後なのが寂しそうに「えーもうー？」といってくれる子もいました。

## 所感

- 演奏終了後、施設管理者さんから「この場所ができて４年目になりますが、こういった外部の人を呼んで何かすることはなかったので、すごく新鮮でした。子供たちも（騒ぎ出しちゃったりして）正直最初の一曲で終わりかな？と思っていたけれど、結構長くこの場に居れたので職員もびっくりでした。この４年間で身につけられたのかなと思います。またぜひ次も来てください。年に数回のペースでお願いしたいです。」とおっしゃって頂きました。喜んでいただけて何よりでした。

- 演奏中に、椅子に座って音楽に合わせて、腕を動かして踊ってくれている子供たちがいました。
  座って聴くように言われていたかと思うのですが、「今日は立って踊っていいんだよ」ということをもっと伝えておけばよかったと反省しました。せっかく楽しんでくれている様子だったので、もったいなかったです。
  また、踊りが OK であれば大人向けのタンゴなどの曲でも「音に合わせて動いてみよう！」というふうに踊ったりして楽しめる子もいたかもしれないなと思いました。

- 今回、子供たちは一曲一曲元気に手拍子や拍手をして盛り上げてくれて、とてもありがたかかったです。同時により静かな曲とのギャップに戸惑わせてしまったかなと思いました。
  元気な曲のモードから一気に変わるので、盛り上げようとする行動（手拍子など）をどうしたらいいのかわからず、心許なく無理して（こちらに合わせるように）手拍子している様子もありました。
  状況に応じて楽曲を変更することも勿論ありますが、静かな曲は賑やかな曲が続いて一休み要素として欲しいこともあるので、上記にあった丸尾さんの「3 分静かにしてみよう」声かけに合わせて、「この曲を聴くときは目を閉じてみよう」「手をお膝に置いたままにしてみよう」と言った、身体全体も一休みさせるような声かけもあってもいいかと思いました。

CASIO
PRIVIA

CASIO
PRIVIA

TORY

令和５年３月 31 日

静岡市　御中

ＮＰＯ法人アートコネクトしずおか
保崎一乃

# 『コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト』報告書

## 活動目的

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト
障害のある子供たちに大道芸で楽しんでもらう試み。

## 訪問者

【出演】
あまる さん（演劇パフォーマー）

【主催】
ＮＰＯ法人　アートコネクトしずおか
理事　遠藤 次朗
　　保崎 一乃

## 活動内容

会　　場　　児童発達支援　ナトゥラーレはぐはぐ

Ｕ Ｒ Ｌ　　https://www.haghag.net/

場　　所　　〒424-0038 静岡県静岡市清水区押切 846-3

日　　時　　2023 年 2 月 21 日（火）10:30~11:30

対　　象　　通所利用者（就学前の子供たち）＋支援員

人　　数　　合計 60 名ほど （子供 50 名、支援員 13 名ほど、保護者 1 名）

## 全体の流れ

風船パフォーマンスや、ジャグリング、大きいけん玉を使ったパフォーマンス、パントマイム、ボール回しなどを行っていただきました。
最後には、子供たちのリクエストで風船アートを作っていただきました。

## 成果

- 今回は年齢が 2、3 歳と小さい子供たちが対象だったので、あらかじめ、あまるさんから距離をとった所に柵を立てて、あらかじめ柵の向こうから見るようにしてくださいました。
  子供たちが会場に入ってくると、「きゃー！」と一斉に柵の前に集まってあまるさんに話しかけ始めました。あまるさんが挨拶をすると「かっこいいーーー！」とコールをする子もいて、柵から手を出して手を振ってくれたり、アイドルのライブばりに盛り上げてくれました。
  柵は途中、あまりの盛り上がりに倒れてしまうほどでした。

- 風船アートでは風船を長く膨らませてヒョイっと子供たちの方にかざすと、それだけで「きゃー！ひゃー！」と歓声が上がり、身を乗り出してとても喜んでくれました。

- ベネズエラ出身の男の子は、特にボール芸に注目してみてくれて喜んでいた様子でした。

- パントマイムで壁があるように動く芸では、２、３歳児には難しかったのか、あまるさんが「ここに何があるでしょうか～？」と聞くと、元気いっぱいに「何もなーい！！」と答えてくれました。
  ですが、パントマイムの動きを真似して動く際には、手をぐるぐる動かして一生懸命真似して動いてくれました。

- 片手にボールを持って回しながら増やしていく芸では、あまるさんが柵の近くまで子供たちに接近すると、きゃー！と柵を乗り出さんばかりに「すごーい見せてー！」「貸してー！」「触

らせて！」と目をキラキラさせてみてくれました。
子供たちは「すごい！」よりも「触ってみたい！」の方が強く、手を思いっきり伸ばして、ボールを触るチャンスを伺っていました。

- 穴のあるフリスビーのような形の輪っかを使って、人間輪投げをする芸では、弊団体の遠藤が、あまるさんと交互に、的になったり輪っかを投げたりしました。なかなか輪が入らずいると、子供たちは「頑張れー！！」と柵を掴んで思いっきり大きな声で応援してくれ、すごく暖かな気持ちになりました。

- 風船を子供たちに持ってもらい、そこに棒を刺しても割れない体験では、あまるさんがやってみたい人を募ると、子供たちはすぐにピッと手を上げてくれました。
その中から女の子が参加してくれたのですが、前に出て風船を持つと、刺す棒が思っていたより尖っていたのもあり、とても緊張した面持ちで、すごく頑張って風船を持ってくれました。棒が刺さって風船が割れないことを確認すると、安心したのか風船に「いいこいいこ」するように小さな手のひらをポンポンさせていました。

- 最後に風船でうさぎを作っていただきました。
初め、何を作っているか当てるクイズから始まったのですが、こどもたちは各々あれだこれだと回答してくれ、舌足らずな言葉一つ一つがとても可愛らしかったです。
舌足らずでうまく伝わらず、「もうっ、だから違うーーー！」と言っていた女の子の答えが正解した時の「だから、そう言ってるじゃん」という、スンとした表情が愛らしかったです。
うさぎは作りながら口や、目や色々なパーツをつけていくようにして制作していたのですが、子供たちの反応はなかなか素直かつ辛辣で、つけたパーツが思っていたのと違ったり、リクエストしたパーツじゃなかったりすると「かわいくなーい」「いらなーい」とグサグサ言い切っておりました。

- うさぎの後に子供たちのリクエストのものを作っていただいたのですが、真っ先にリクエストをくれた男の子の作って欲しいものが聞き取れず（何かのゲームのキャラクターだったようです。）あまるさんも支援員さんも一同、頭に？を浮かべながら詳しく聞いてみるも、やはりよくわからず・・・時間が迫っていたのでそのまま終了となりました。男の子は泣いてしまいましたが、終了後にあまるさんが調べて風船を渡してくださったので、本当にありがたかったです。最後の最後まで楽しく終わらせてくれました。

- 演奏終了後、支援員さんから「今日から入所する子もいたので、途中で飽きてしまう子もいたけれど、２歳児の子たちは飽きてもまた戻ってみてという様子で全体的に楽しんでくれていた」とおっしゃっていただきました。
系列の施設からも大道芸を見にきてくれた子供たちや、なかなか間近で見る機会はないので

子供に見せたいと一緒に体験で参加してくれた親御様もいらっしゃいました。

## 所感

- 風船に棒を通しても割れない体験で子供たちが参加したいと手を挙げた際に、支援員さんからも了承済みでしたが、使う道具まではしっかり見せていなかったので、いざ体験する際に使用する棒を出されると想像以上に先が尖っていて少し固まった表情でした。体験してくれた女の子も最終的には楽しんでくれていましたが、尖った棒にさらに緊張したように思います。
  今回は特に対象が幼い子供たちだったので、誰がどう見ていても安心できるようなソフトなものにするべきでした。
  今後体験型の場合は、こういった道具を使うということを支援員さんに始まる前に見せ、確認を怠らないようにし、支援員さんも付き添って参加するなど、事業所に通う子供たちの年齢・傾向に合わせた内容にできるよう、あらかじめの打ち合わせを念入りに行う必要があると反省しました。

- 手に持ったボールが段々と増えていく芸では、ボールが 1 つずつ増えていったので、初めは「おおー！」と喜んでくれていた子供たちも、5 個、6 個、7 個となるとさすがに見飽きてきて、退屈そうでした。支援員さんの表情など大人の反応からしても長かったので、２、３歳児の集中力の中で、よく続けてみてくれていたなと思う部分もあります。途中から結構気を使って見ていたり反応している様子もありました。
  どんなにすごい芸でも、1 個ずつ増えては素人目にはそんなに大差なく映って繰り返しのようになってしまうと思うので、1 個が 5 個、10 個と、わかりやすく一気に増やしたりしていただけたらよかったと思いました。

- 人間輪投げの際も入るまで何往復か輪投げをしていたので、もう少し短く、もしくは途中で人を変えたりして子供たちを参加させてもよかったかと思います。
  恐らく 1 つずつ増やして出来ていく成功体験として魅せていきたい様子ではあったのですが、子供たちの年齢的にもそこまでわからないと思いますし、集中力的にも、今後はもう少し短いスパンで色々な芸を魅せていただけるようお伝えしたいと思います。
  また、柵があるならあるなりに、柵の向こうから子供たちに輪など投げてもらうなどして交流があってもよかったなと思います。

令和５年３月31日

静岡市　御中

ＮＰＯ法人アートコネクトしずおか
保崎一乃

# 『コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト』報告書

## 活動目的

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト
障害のある子供たちに生の音楽を届け楽しんでもらう試み。

## 訪問者

【出演】
丸尾 あみこさん（バイオリニスト）
良知 友見さん（ピアニスト）

【主催】
ＮＰＯ法人　アートコネクトしずおか
理事　遠藤 次朗
　　保崎 一乃

## 活動内容

会　　場　　児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援　ロペキッズ

Ｕ Ｒ Ｌ　　https://rinodays.com/

場　　所　　〒420-0882　静岡市葵区安東 2-18-16

日　　時　　2023 年 2 月 25 日（土）10:30~11:30

対　　象　　通所利用者（乳幼児～小学生）＋支援員＋保護者
　　系列の事業所と合同で行いました。

人　　数　　合計 25 名ほど （子ども 15 名、支援員 7 名ほど、保護者 2 名）

## 全体の流れ

- 事業所に通っている男の子のお家のホールをお借りして開催しました。
  子供たちの年層は未就学児が中心で、小学生が 2、 3 人ほどでした。

- 2 部構成で、第 1 部は小さい子供向けの曲（ディズニーの曲や童謡など）が多め、トイレ休憩を挟み、第 2 部はクラッシックや重厚な曲を多めに演奏していただきました。（トイレ休憩後は小さい子供たちは事業所に戻る子もいました）

## 成果

- 演奏が始まる前は、丸尾さんが曲説明をしても「知らなーい」と言っていた子供たちが、演奏が始まると急に静かになってバイオリンやピアノの方を向いていました。一瞬で演奏に引き込まれているようで音楽の魔力というのか、パワーをすごく感じました。
  また演奏中、曲が転調する箇所で丸尾さんと良知さんが一度顔を見合わせ演奏したのですが、それがすごくかっこよく、顔を見合わせたと同時に頷きバンッと壮大な音楽が流れて、とても感動しました。

- ディズニーの曲を演奏中、知っている曲だったのか、クルッと後ろの先生の方を向いてニコッと笑ってくれる子がいました。すごく嬉しそうで可愛らしかったです。
  「ミッキーマウスマーチ」の演奏では、立ち上がって周りをくるくるスキップするように歩いたりする子がいました。その子の後を別の子がついてまわって歩いたりして可愛らしかったです。
  最初に立ち上がった子は、他の曲でもオリジナルダンスを踊ってくれて体全体で音楽を表現してくれました。
  「メニーポピンズ」という曲では手を広げて踊り歩き、曲調が変わって静かにゆったりとなると動きもゆっくり小さくなり、激しくなるとまた動き出して、リズムに乗って気持ちよさそうに踊

っていました。

- 「おもちゃのチャチャチャ」では、曲中の「チャチャチャ」の部分では声に出して歌ってくれました。他の子供たちも先生と一緒に踊っていたりしました。
  ディズニーのピノキオの劇中歌「星に願いを」を演奏していただいた際には、ふわ～とあくびをする子もいて、心地よい子守唄のようでした。
  前の方に座っていた子供たちは、ずっとじっと動かずにピアノとバイオリンを観察するように聴いてくれていたのですが、この曲ではその中の男の子も体を揺らして踊ってくれていました。

- 「パイレーツ・オブ・カリビアン」の曲の演奏が始まると、急に両手を耳に当てる子がいました。低音で大きい音だったので苦手だったかなと思ったら、「この曲知らない」と支援員さんに話して、すぐに手を離していました。音を吟耳して確認していたようでした。

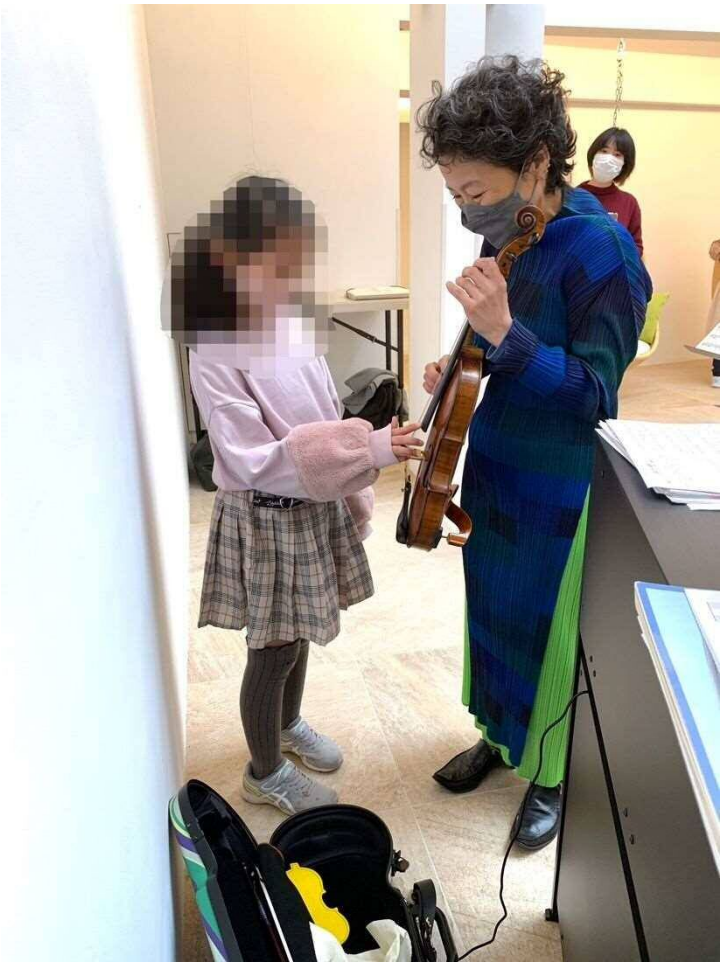
- トイレ休憩の際に、前の方の席ですっと聴いていた小学生の女の子が、丸尾さんにバイオリンについて質問しにきました。楽譜や演奏の仕方、使う道具の漢字の成り立ちなど色々と面白いお話をしていただき、女の子もバイオリンに触れたことがあるのか頷きながら詳しいお話をしていて、今までも楽器に興味のある子が「見たい」と近くにきて質問することはありましたが、特に熱心に興味を持ってくれている様子で、すごく新鮮で充実した時間でした。
  女の子が話していると、他の子も「なになに～？」と近づいてきてバイオリンに吸い込まれるように観察していました。
  その様子を支援員さんがカメラで撮りながら「嬉しいです。こんな姿見られて！」と満面の笑みで声をかけてくれました。
  第２部が始まると女の子はよりバイオリンの方を向き、真剣な眼差しで聴いていました。

- 第２部の演奏では小さい子供たちは事業所に戻り、演奏曲もクラシックなど大人向けの曲が多かったので会場がしっとりとした雰囲気でした。時間の流れが遅くなったようで支援員さんや親御さんがゆったりうっとりとした表情で聴いていました。支援員さんや親御さんにとっても、癒しをお届けできて良かったです。

- 今回この会場とさせていただいたお家の男の子は、始まる前は他の子たちと走り回って遊んでいたのですが、始まると同時ぐらいにお父さんの膝でぐっすり眠ってしまいました。演奏が終わってもまだすやすや眠っていて、なんだかちょっと申し訳ない気持ちになりつつも、心地よい子守唄になったならよかったなと思います。

- 演奏中は、眠っている子もいれば、ずっと真剣に見ている子、踊っている子、先生と一緒に手をぱちぱちさせている子、それぞれの聴き方で楽しんでくれているようでした。
  子供たちは全体的に静かに演奏を聴いていましたが、曲が変わるたびにちょっとした反応で、こ

の曲好きなのかなと思えるような仕草や表情が見え、一曲一曲味わって聴いている姿がすごく嬉しく、優しい気持ちになりました。



令和５年３月 31 日

静岡市　御中

ＮＰＯ法人アートコネクトしずおか
保崎一乃

# 『コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト』報告書

## 活動目的

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト
障害のある子供たちに大道芸で楽しんでもらう試み。

## 訪問者

【出演】
あまる さん（演劇パフォーマー）

【主催】
ＮＰＯ法人　アートコネクトしずおか
理事　遠藤 次朗
　　保崎 一乃

## 活動内容

会　　場　　静岡市心身障害児福祉センター(児童発達支援センター)　いこいの家

Ｕ Ｒ Ｌ　　http://www.ikoinoie-kodomo.jp/

場　　所　　〒420-0846 静岡市葵区城東町 24 番 1 号

日　　時　　2023 年 3 月 13 日（月）10:30~11:30

対　　象　　通所利用者（就学前の子供達）＋職員さん

人　　数　　合計 62 名ほど （子供たち 42 名、職員さん 20 名ほど）

## 全体の流れ

ボールパフォーマンス、風船アート、ジャグリング、皿回し等多岐に渡る芸をやっていただきました。
子供たちは、多動の傾向のある子からベッド型の車椅子の子まで、みんな集まって参加してくれました。

## 成果

- あまるさんが準備しながら会場に入ってきた子供達に話しかけると、子どもたちはジーーっとあまるさんの道具一式に興味津々で目で追いかけている姿が可愛らしかったです。

- 始めに風船でクマを作っていただきました。すごく子供たちはすごく盛り上げてくれて風船が膨らむたびに「うおお！」歓声を上げてくれるサービス精神旺盛に反応してくれる子もいました。
  風船のクマの家族が出来上がると最後に、事業所名「いこいの家」にかけてクマさんたちがすむ「大きな憩いの家」を作ってくださいました。子供たちにはまだ分かりにくかったかもしれませんが、支援員の先生方から「おお…！」と静かにリアルな歓声をいただきました。

- あまるさんが大道芸について子供たちに「大道芸みたことがあるひと～？ないひと～？」と質問し、「ないひと～？」と尋ねると、「あるーーー！」と言いながら元気に手を上げている男の子。その元気な大きな声が会場をより一層明るくしてくれました。

- 皿回しでは追加で道具を持ってきてくださり、会場が梁が見える設計になっていたので、皿を回す棒を伸ばして伸ばして天井に近くの梁の上まで上げました。会場からわぁー！とひゃー！と歓声と絶叫の声。とても盛り上がりました。

- 棒のジャグリングや、ボールを増やしながらまわす芸では、回しながら子供達に接近して間

近で見えるようにしてくださいました。子供たちは触りたくて手を伸ばしたり「私に貸して！」「俺もー！」とあまるさんが移動する方に動いてました。

- 先頭だけでなく後ろにも回って見せてくださったので、後ろの席にいた子供たちは少し驚いた様子で嬉しそうに間近で見ていました。
  あまるさんがそれぞれのクラス分一周したあと、重度のベッド型の車椅子の男の子のそばについていた支援員さんが「あっ笑ってる！」と隣の支援員さんと嬉しそうに話していました。

- 大きなけん玉を使ったパフォーマンスでは、あまるさんの合図に合わせ、けん玉のどちらかの受け皿に乗ったら、手を 1 回叩く、2 回叩くなどのルールのもと、タイミングよくリズムカルに手を叩きました。途中、「あっ間違っちゃった！」「今だ！」との声がところどころ聞こえ、その声がちょっと恥ずかしそうに楽しそうで、手拍子の熱で会場の温度が少し上がったように感じました。

- 富士山に見立てた台形の台に、円柱の側面に板を置いてまた円柱を置いて板を置いてその上に立つバランス芸では、どんどん難易度が上がっていって、初めはおおー！と歓声だったのが段々高くなるにつれて会場は静かになっていきました。（子供たちだけでなく支援員さんも含めて）会場一体となって固唾を飲んで見守りました。最後の板まで登り終えると、歓声と安堵の拍手が響き渡りました。

- 終了後、片付けの準備をしているとうさぎが描かれたお礼のメッセージを子供たちからいただきました。あまるさんと一緒に記念撮影をして、子供たちもそうですが、支援員さんもすごく嬉しそうで、本当に楽しんでくれて何よりでした。
  また、クラスに戻りたくないとごねている男の子がいました。思いっきり「やだー！」と泣きじゃくっていたのですが、あまるさんが作ったクマの風船を渡し一緒にいた支援員さんと一緒に「クラスに持っていってくれるかな？」というと、段々と落ち着いて「仕方ない、持って行くか」と妙に頼もしい雰囲気を醸し出し、支援員さんとクラスに戻っていきました。

- 終了後、担当の支援員さんから、今日はありがとうございました。皿回しや台に乗るパフォーマンスなど、日常あまりハラハラドキドキすることはないので、いい刺激になったかと思います。とおっしゃっていただきました。
  また、コロナ以前は駿府公園で大道芸ワールドカップが行われてる時は、散歩がてらちょっとのぞいたりすることもあったりしたけれど、コロナ禍になってからはそういうことも一切なく、施設内でのイベントも中止縮小で、現在だんだんと緩和してきたと言っても万が一のことを考えると様子見でなかなか実行できない状況なので、今回はよかったです。と現場の声をお聞かせくださいました。

## 所感

- 初めに風船アートでクマを作っていただいた際に、水色の風船で作っていただいたのですが、この水色というのがクマのイメージに結び付かなかったようで、子供たちは作っている最中、眉間に皺を寄せながら「うーん？」と考えて見ている様子で、出来上がってきてあまるさんからの「何かわかったかな～？」との問いかけにも考え込んでいました。出来上がったクマを見ても「ほう？」とちょっと首を傾げながら見ていました。色に先入観を植え付けてはいけないかもしれませんが、単純な形の場合は色のイメージと組み合わさって、そのものと想定がつくのだなと感じました。
  その後に生まれた２匹のクマたちはピンクと緑色で、そこまで全体を通して色がバラバラだと、逆にまとまってその意図が汲み取れるのかもしれないのか、「ふーん」と静かに頷いている子もいました。